重要文化財
神戸女学院

Kobe College
National Important Cultural Property

重要文化財の指定を受けて

この度、神戸女学院岡田山キャンパスの 12 棟の建物が、国の重要文化財に指定されました。名称は「重要文化財　神戸女学院」です。今回の指定では、個別の建物ではなく、神戸女学院のキャンパスのほぼ全体（ウィリアム・メレル・ヴォーリズ設計によるオリジナル建築物の全て）が指定の対象になっているところに特徴があると理解しています。

ヴォーリズ設計による神戸女学院の校舎群は、彼の代表的な建築であり、第二次世界大戦と阪神淡路大震災という二つの大禍をくぐり抜けて、ほぼオリジナルな原型を保ちながら、今なお神戸女学院の教育のための器として、大切に使用されています。

神戸女学院の卒業生・在校生・教職員・関係者にとって、この校舎は、これまで輩出してきた素晴らしい卒業生と並んで、何よりも大切なものであり、また誇りとするものです。

ヴォーリズは教育施設としての、そして宗教施設としての品性を何よりも大切にしました。「美しい心を育むための品格ある建築」、これこそヴォーリズが神戸女学院岡田山キャンパスの建築において、目指したものであったと言えるでしょう。このかけがえのない賜物を大切に保存しながら、ヴォーリズが建築によって表現しようとした人格教育を実現する決意を新たにしたいと願っています。

2014年 初秋

学校法人神戸女学院

ヴォーリズと神戸女学院
Beauty Becomes a College

大正末期から昭和初期にかけて住宅をはじめ教会や学校、商業施設等1500を越える建築を全国に残したウィリアム・メレル・ヴォーリズ（William Merrell Vories）。神戸女学院がリベラルアーツ教育に基づいた理想の女子大学を実現するためにキャンパス移転を計画した時、設計者に選ばれたのが彼であった。

妻・一柳満喜子（ひとつやなぎ／まきこ）の母校ということもあり、特別な思いを込めて、キャンパス全体の設計に当たったという。「建物それ自身が生徒の上に積極的影響を及ぼす」―これが彼の設計思想である。この「学舎が教育する」という思想は、神戸女学院のキリスト教に基づいたリベラルアーツ教育の理念と合致するものであった。

1934年の献堂式当日歌われた「Dedication Hymn（献堂讃美歌）」はヴォーリズの作詞作曲による。また、キャンパスが完成していく喜びを時のデフォレスト院長（Charlotte Burgis DeForest）は「Beauty Becomes a College（神の美が学園となる）」と詩に表した。この二つの讃歌は、神戸女学院岡田山キャンパスが理想のミッションスクールとしてここに実現したことを伝えている。

W.M.ヴォーリズ
（1880-1964）

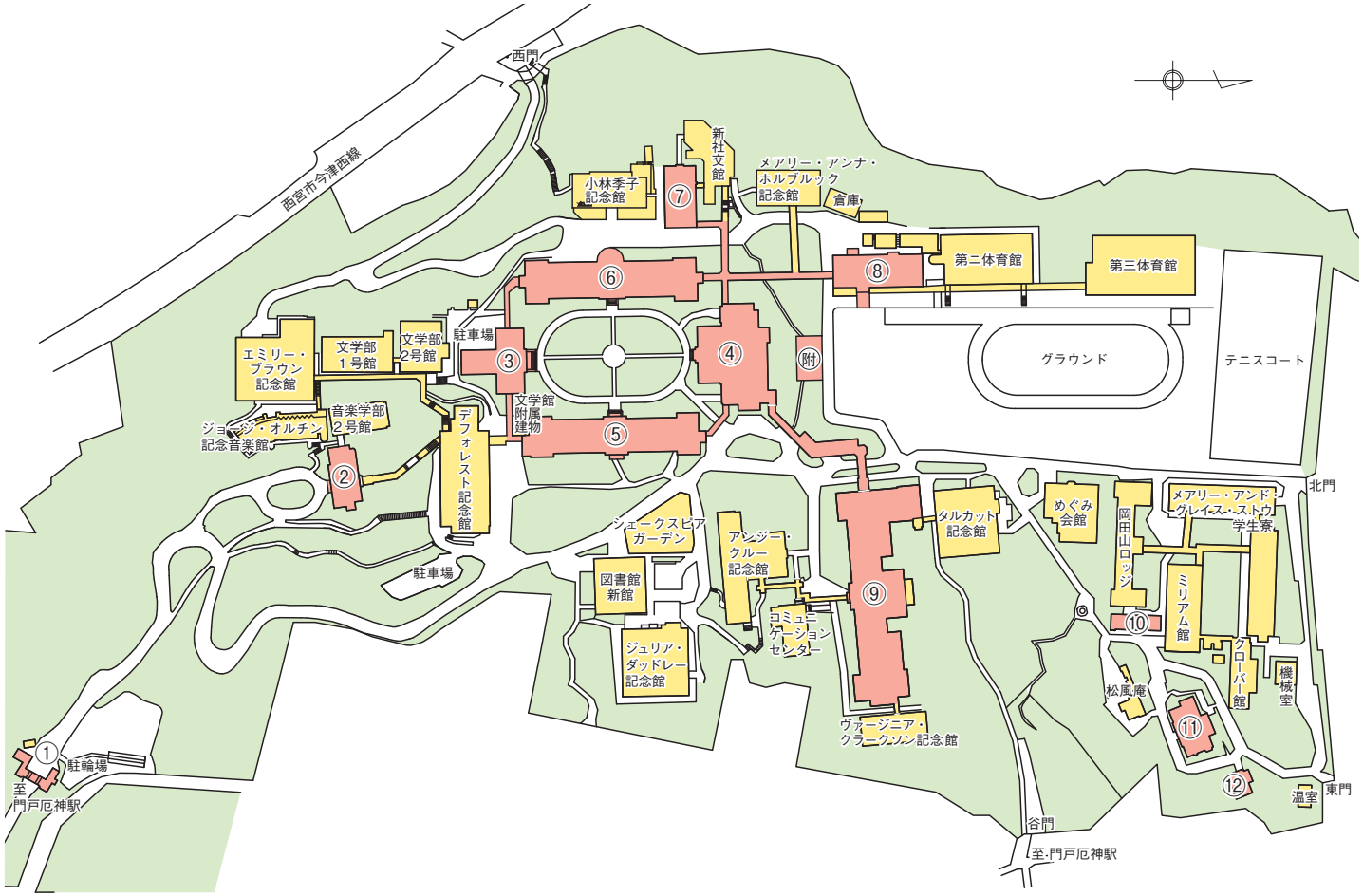
神戸女学院
ヴォーリズ設計の校舎に関わる年表

1875年　アメリカンボードの2人の女性宣教師によって神戸山本通に女子寄宿学校として創立
1879年　校名を「英和女学校」と定める
1880年　W.M.ヴォーリズ、米国カンザス州に誕生
1894年　校名を神戸女学院 Kobe College と改称
1905年　ヴォーリズ、来日
1908年　ヴォーリズ、建築設計監督事務所を開業する
1919年　ヴォーリズ、一柳満喜子（音楽部ピアノ科の一期生）と結婚
1929年　新校舎設計をヴォーリズ建築事務所に依頼
1930年　西宮岡田山敷地校旗掲揚式
1931年　竹中工務店と建築契約締結
1933年　岡田山キャンパスに移転
1941年　金属供出
　　ヴォーリズ、日本に帰化し、一柳米来留と改名
1944年　校舎徴用
1945年　焼夷弾を受けて文学館屋根が破損
1964年　ヴォーリズ、近江八幡で召天、83才
1995年　阪神淡路大震災で被災
2009年　総務館、講堂及び礼拝堂／図書館／文学館／理学館／音楽館の5棟が国の登録有形文化財に認定される
2014年　ヴォーリズの設計による17棟のうち現存する12棟が国の重要文化財に指定される

岡田山キャンパスの概要

所在地：兵庫県西宮市岡田山4番1号
設計：ヴォーリズ建築事務所
施工：竹中工務店
敷地：135,026㎡（移転当時）
ヴォーリズ校舎：17棟（内現存12）

キャンパスマップ



神戸女学院のヴォーリズ建築（国指定重要文化財）
各建物の写真にも同じ番号が付されています

① 正門・門衛舎
② 音楽館
③ 図書館
④-1 総務館
④-2 講堂
④-3 礼拝堂
⑤ 文学館
⑥ 理学館
⑦ 社交館
⑧ 体育館
⑨ 葆光館（中高部）
㊎ パーゴラ
⑩ 汽罐室と煙突
⑪ ケンウッド館
⑫ エッジウッド館

＊表紙の写真は総務館から見た中庭の眺め。
　十字に配置されているのは左から、文学館、図書館そして理学館
＊裏表紙は2012年の空撮写真

①

正門・門衛舎
Main Gate and Gate House

正門の鉄扉は戦時中供出されたが、戦後復元された。

④-1

総務館
Administration Building

1 階および 2 階に法人部門の執務室が配されている。

⑤

文学館
Literature Building

正面五連窓が特徴的な校舎。舞台のある階段教室では演劇が行われた。

②

音楽館
Music Building

後ろの斜面壁を自然の防音壁として利用し、楽器音が他の校舎に影響しない設計である。

④-2

講堂
Auditorium

講堂正面には半円形のプロセニアム・アーチのある舞台、ホール内の天井は吹き抜けで、後部に 2 階席が設けられている。

⑥

理学館
Science Building

左右の長さを感じさせるデザインの校舎。円形の講義室や理化学系の実験室等が配されている。

③

図書館
Library

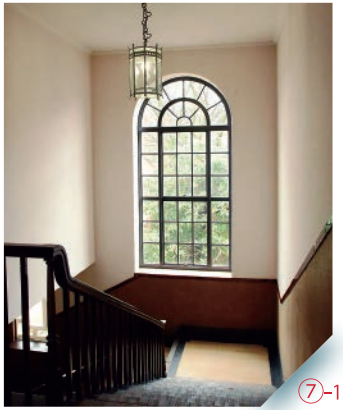
全面北向きの大窓は、本を保護し、夕方でも十分に光を取り入れて閲覧室の明るさを保つための工夫である。

④-3

礼拝堂（ソール・チャペル）
Searle Chapel

7本の蝋燭を象ったステンドグラスが特徴。2 階に聖歌隊用のバルコニー席がある。

＊総務館、講堂及び礼拝堂は 3 つの機能を備えた 1 つの建物であり、内廊下でつながっている。



⑦-1

⑦-2

社交館
Social Center

生徒・学生の社交の場。食堂、クラブ室等がある。暖炉風の設えには泰山タイルが使われている。

⑧

体育館
Gymnasium

2階観覧席を付設したコンパクトに機能を詰め込んだ体育館。

⑩

汽罐室と煙突
Power House of Dormitory Section

居住区のスチーム暖房（セントラルヒーティング）をかつて担っていた。

⑨

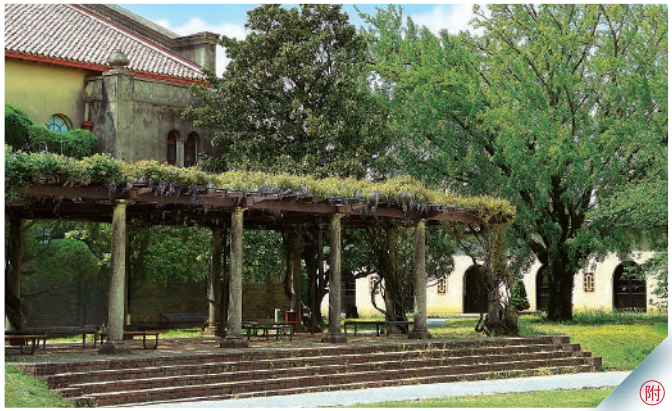
葆光館(中高部)
Hokokan(Academy Building)

中高部用校舎。体育、実習室等の特別教室が設けられ、長い一本の廊下、吹抜階段が特徴。

⑪

ケンウッド館
Kenwood House

宣教師の主住宅として建てられた共同住宅。校舎に比べ質素な作りになっている。現在はゲストハウス。



㊎

パーゴラ
Pergola

同窓会からの移転記念寄付により作られた。

⑫

エッジウッド館
Edgewood House

宣教師住宅として建てられた共同住宅。現在は大学の教室として使用している。

神戸女学院
岡田山キャンパス

学校法人 神戸女学院
〒662-8505 西宮市岡田山4番1号

デザイン：今竹　翠
建物写真：吉永真理子
2014年 初版発行
印刷：河北印刷株式会社